

2025年度
学修成果・学修時間・学修行動に
関するアンケート
結果報告

1. 2025年度学修成果・学修時間・学修行動に関するアンケートについて

(1) 実施期間：2025年度秋学期成績発表～3月27日（金）

4年生：2026年2月12日（木）～3月27日（金）

1～3年生：2026年3月5日（木）～3月27日（金）

(2) 実施対象：全学生（1～4年生） ※学年は2025年度

全学年を対象に毎年度定期的の実施することで、各学年の学修成果・学修時間・学修活動を把握・可視化できるようにする（在学期間中に毎年度＝計4回以上実施する）。特に4年生については、課程全体を通じた成長実感・満足度等について測定する「卒業時アンケート」として実施した。

(3) 実施方法：WEBアンケート（Microsoft Teams）／記名式で実施

4年生は卒業式での設問用紙の配付・回収を併用

(4) 在籍者数（2026年3月1日現在）・回答者数・回答率

○ 在籍者数（2026年3月1日現在）

在籍者数	経済学部		経営学部	法学部	国際学部	学年別 合計
	経済学科	経営学科	経営学科	法律学科	国際学科	
1年生	240	—	249	272	209	970
2年生	209	—	232	252	211	904
3年生	234	—	244	269	198	945
4年生	249	1	249	266	219	984
学科別合計	932	1	974	1059	837	3803

○ 回答者数

回答者数	経済学部		経営学部	法学部	国際学部	学年別 合計
	経済学科	経営学科	経営学科	法律学科	国際学科	
1年生	117	—	192	75	24	408
2年生	64	—	161	55	71	351
3年生	4	—	10	23	23	60
4年生	195	1	198	211	160	765
学科別合計	380	1	561	364	278	1584

○ 回答率

回答率	経済学部		経営学部	法学部	国際学部	学年別 回答率
	経済学科	経営学科	経営学科	法律学科	国際学科	
1年生	48.8%	—	77.1%	27.6%	11.5%	42.1%
2年生	30.6%	—	69.4%	21.8%	33.6%	38.8%
3年生	1.7%	—	4.1%	8.6%	11.6%	6.3%
4年生	78.3%	100.0%	79.5%	79.3%	73.1%	77.7%
学科別回答率	40.8%	100.0%	57.6%	34.4%	33.2%	41.7%

○ 2025年度卒業生回答者数、回答率

卒業生回答率	経済学部		経営学部	法学部	国際学部	合計
	経済学科	経営学科	経営学科	法律学科	国際学科	
卒業生数	218	1	227	250	198	894
卒業生回答数	195	1	198	213	159	766
卒業生回答率	89.4%	100.0%	87.2%	85.2%	80.3%	85.7%

(5) アンケート設問項目（全国学生調査の設問と一致）

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

(4:よくあった、3:ある程度あった、2:あまりなかった、1:なかった)

- 1-1 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
- 1-2 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
- 1-3 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
- 1-4 グループワークやディスカッションの機会がある。
- 1-5 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
- 1-6 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

(4:有用だった、3:ある程度有用だった、2:あまり有用ではなかった、1:有用ではなかった、0:経験していない)

- 2-1 インターンシップ（5日間以上）
- 2-2 海外留学・海外研修（短期も含む）
- 2-3 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(4:身に付いた、3:ある程度身に付いた、2:あまり身に付いていない、1:身に付いていない)

- 3-1 専門分野に関する知識・理解
- 3-2 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 3-3 文献・資料を収集・分析する力
- 3-4 論理的に文章を書く力
- 3-5 人に分かりやすく話す力
- 3-6 外国語を使う力
- 3-7 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 3-8 問題を見つけて解決方法を考える力
- 3-9 他者と協働する力
- 3-10 幅広い知識、ものの見方
- 3-11 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(4:そう思う、3:ある程度そう思う、2:あまりそうは思わない、1:そうは思わない)

- 4-1 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 4-2 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 4-3 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 4-4 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(1:0 時間、2:1-5 時間、3:6-10 時間、4:11-15 時間、5:16-20 時間、6:21-30 時間、7:31 時間以上)

- 5-1 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- 5-2 卒業論文・卒業研究・卒業制作（2年生は設問無し）
- 5-3 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）

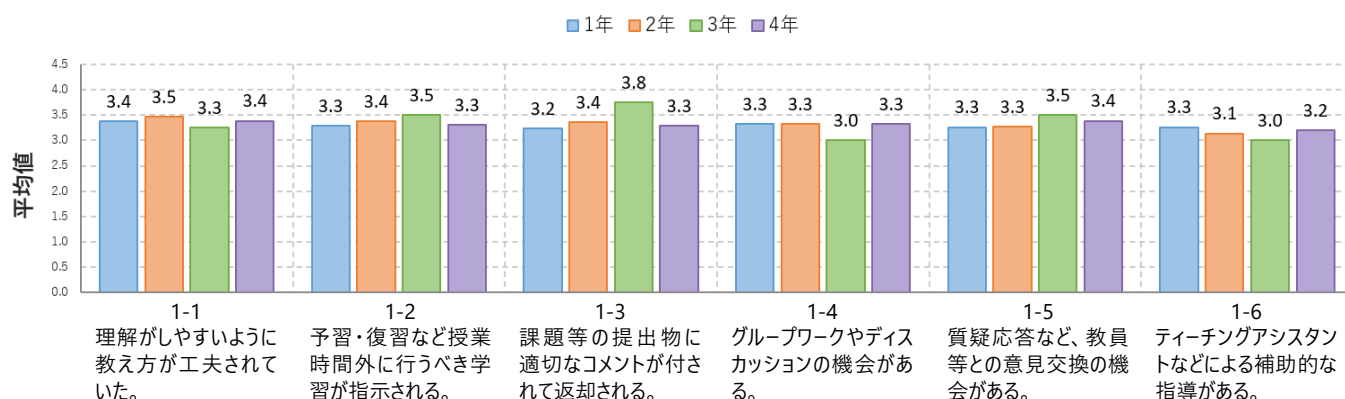
- 5-4 授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）
- 5-5 部活動／サークル活動
- 5-6 アルバイト／定職

2. アンケート結果（集計結果と概評）

※3年生については回答者数が少なく、集計結果が個々の回答の影響を受けやすいことから、参考値としてグラフには掲載しているものの、各設問に対するコメントでは言及していない。

（1）経済学部経済学科

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。
 （4:よくあった 3:ある程度あった 2:あまりなかった 1:なかった）



○授業方法に関する評価は全体として安定しており、1-1「教え方の工夫」は1・2・4年生のいずれも3.4以上。

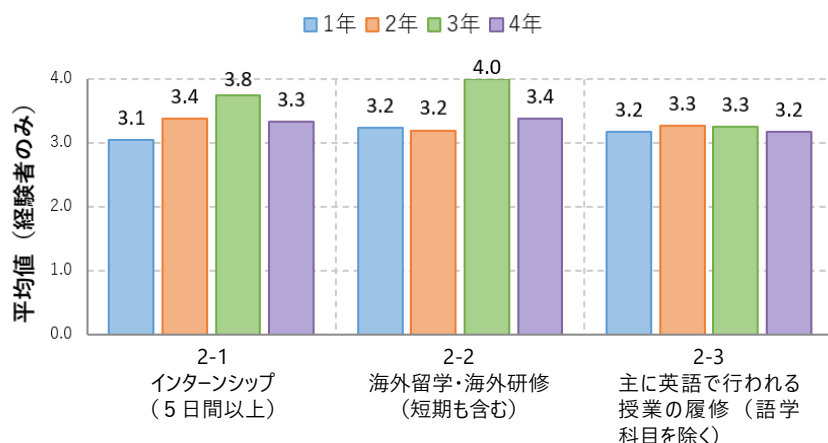
○一方、1-4「グループワーク等」は3.3で横ばいであり、学年進行による広がりは見られない。

○1-6「補助的指導」は2年生3.1、4年生3.2と、他の設問と比べて相対的に低く、教え方への評価の高さに比べ、学生への個別的な支援や補助的な指導は弱い部分として表れている。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

（4:有用だった 3:ある程度有用だった 2:あまり有用ではなかった 1:有用ではなかった 0:経験していない）

※「0:経験していない」を除いて集計

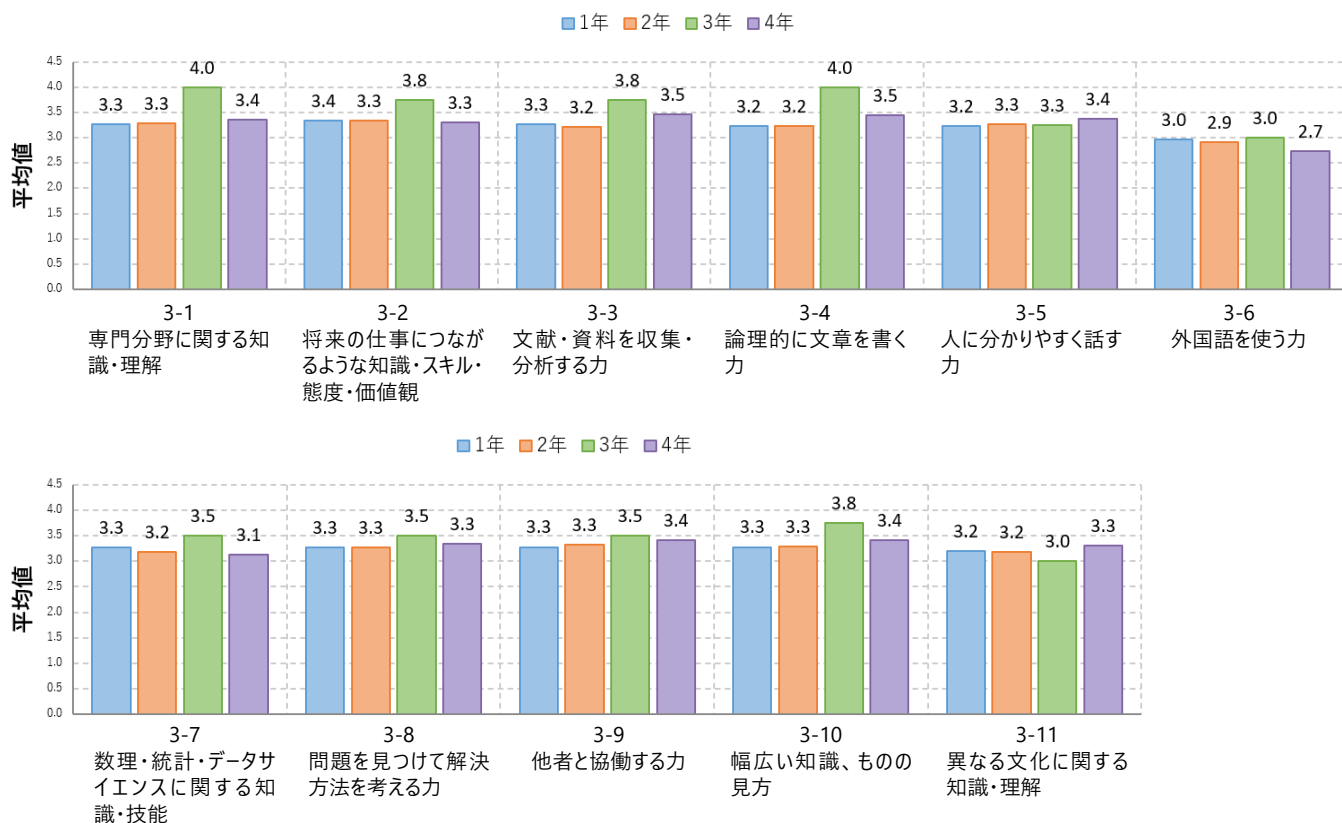


○経験者による評価は3項目とも3点台前半で、大きなばらつきはなかった。

○ 2－3「英語で行われる授業」は1年生3.2、4年生3.2で伸びがなく、4年生では3項目中最も低くなった。国際的な学修機会のうち、海外経験は伸びている一方、英語授業の評価が高まっていない点が課題として挙げられる。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(4:身に付いた 3:ある程度身に付いた 2:あまり身に付いていない 1:身に付いていない)

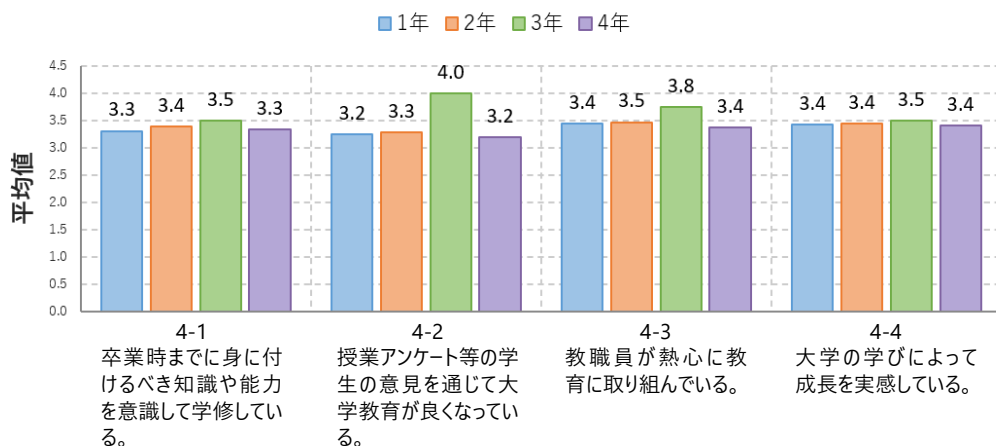


○ 3－3「文献・資料の収集・分析」と3－4「論理的な文章」は4年生とともに3.5となり、専門的な学修に関わる能力の伸びが顕著であるといえる。

○ 一方、3－6「外国語を使う力」は1年生3.0から4年生2.7へ、3－7「数理・統計・データサイエンス」は3.3から3.1へ低下している。専門分野の資料分析や文章表現が伸びる一方で、外国語と数量的な分析力は学年進行に伴う伸びが見られなかった。

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(4:そう思う 3:ある程度そう思う 2:あまりそうは思わない 1:そうは思わない)



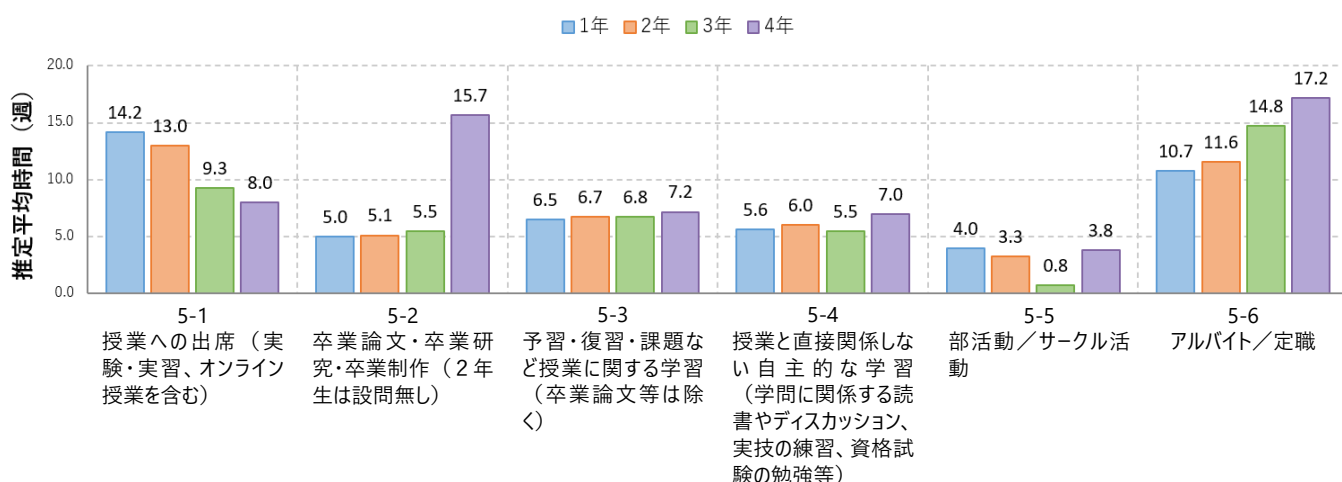
○4－3「教職員の熱心さ」と4－4「成長実感」は各学年で3.4前後を維持しており、教育への姿勢と自身の成長は安定して評価されているといえる。特に4－4は1・2・4年生がすべて3.4で、学年による差がないという結果となった。

○一方、4－2「学生意見による教育改善」は3.2～3.3で一貫して他項目より低く、学年が進んでも評価が高まっていない。成長実感が維持されているのに対し、学生の意見が教育改善につながっているという実感は相対的な課題といえる。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(1:0 時間 2:1-5 時間 3:6-10 時間 4:11-15 時間 5:16-20 時間 6:21-30 時間 7:31 時間以上)

※各回答の階級値 (1:0/2:3.0/3:8.0/4:13.0/5:18.0/6:25.5/7:35.5(31-40 時間と仮定した場合)) の平均値を集計



○学年進行に伴う時間配分の変化が明確で、5－1「授業への出席」は1年生14.2時間から4年生8.0時間へ減少する一方、5－2「卒業論文・卒業研究」は5.0時間から15.7時間へ大きく増えている

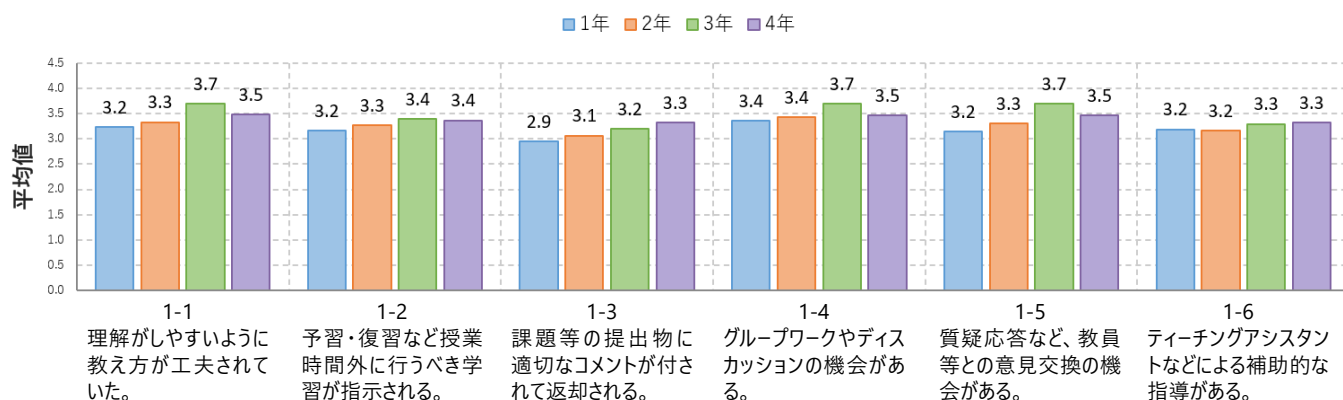
○4年生では卒業論文等の時間とともに、5－6「アルバイト・定職」も17.2時間まで増えており、研究と就労の双方が大きな割合を占めている。

○5－3「授業関連学修」と5－4「自主的学修」は4年生でも7.2時間、7.0時間にとどまり、研究時間ほどの伸びはなかった。

(2) 経営学部経営学科（経済学部経営学科含む）

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

(4:よくあった 3:ある程度あった 2:あまりなかった 1:なかった)



○4年生は6項目すべてで1年生以上となっており、授業に対する評価が学年進行とともに全般的に高まっているといえる。

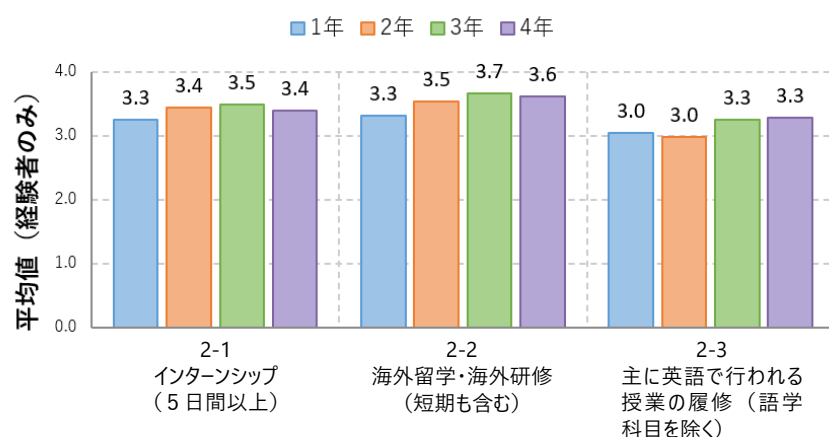
○特に1-3「課題等へのコメント」は2.9から3.3、1-5「教員等との意見交換」は3.2から3.5へ伸びており、フィードバックと対話の面で伸びが顕著である。一方で、1年生の1-3「課題等へのコメント」は唯一3.0を下回っており、初年次の課題へのフィードバックが相対的な課題といえる。

○1-4「グループワーク等」は1年生から3.4と高く、4年生でも3.5を維持しているため、参加型授業は継続的な強みといえる。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

(4:有用だった 3:ある程度有用だった 2:あまり有用ではなかった 1:有用ではなかった 0:経験していない)

※「0:経験していない」を除いて集計

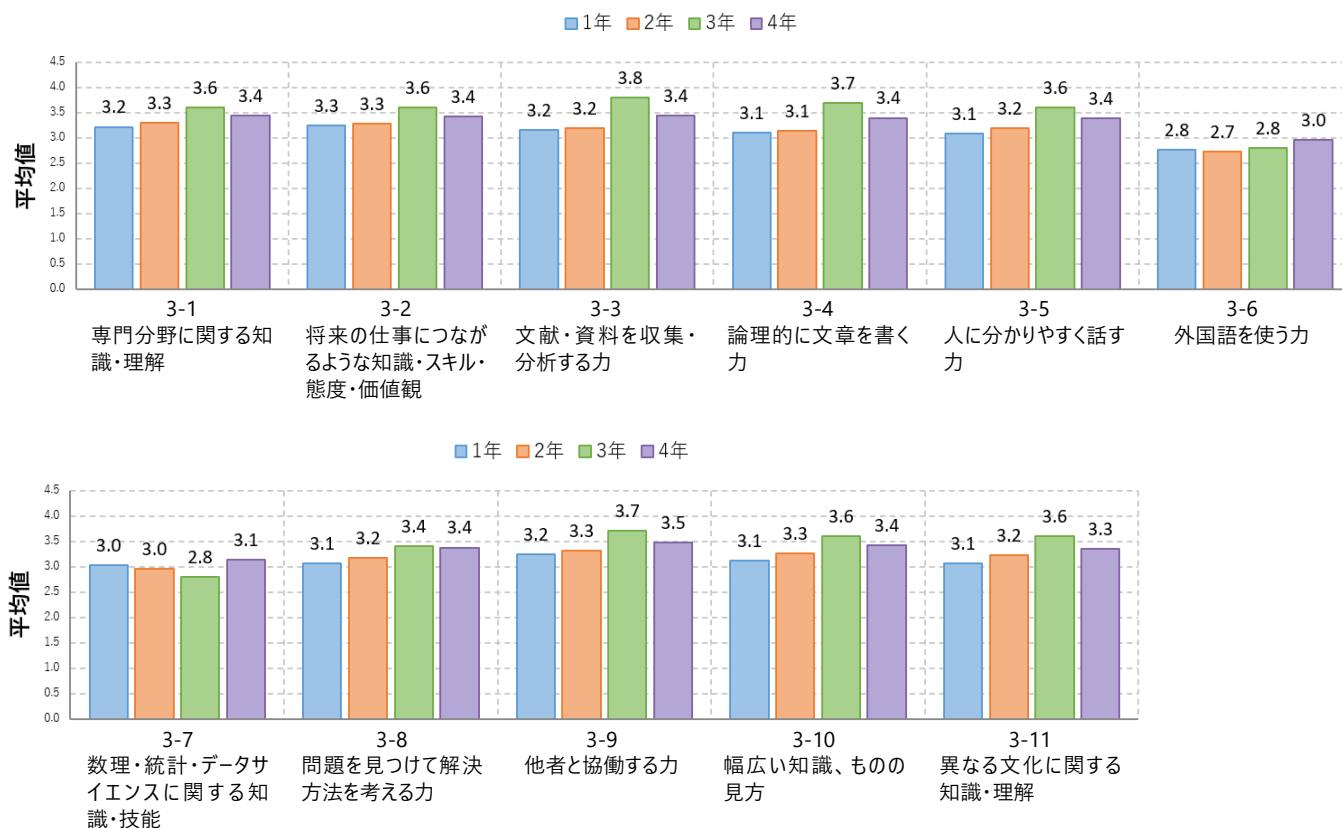


○経験者による評価では、2-2「海外留学・海外研修」が1年生3.3、2年生3.5、4年生3.6と一貫して伸びており、最も顕著な上昇を示している。

○一方、2-3「英語で行われる授業」は1・2年生がともに3.0で、4年生でも3.3にとどまり、他の2項目より低い値となっている。海外研修の評価が伸びる一方、英語授業の評価には相対的な弱さが見られる。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(4:身に付いた 3:ある程度身に付いた 2:あまり身に付いていない 1:身に付いていない)

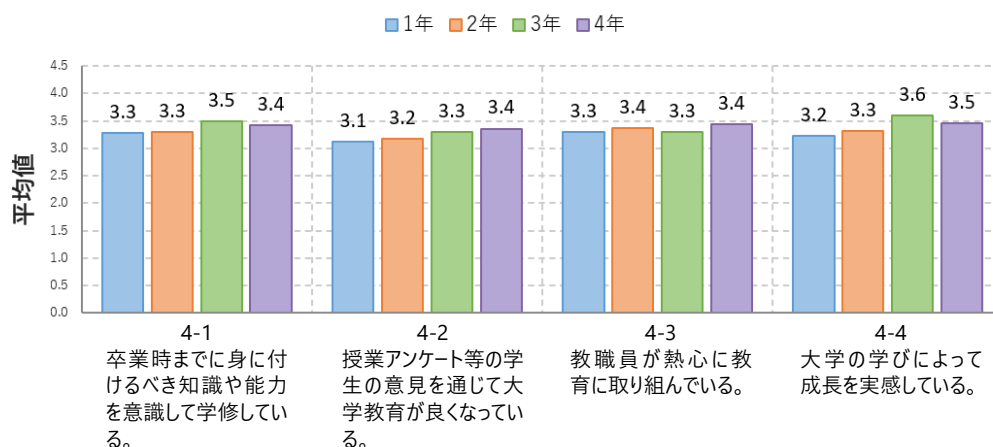


○4年生は11項目すべてで1年生以上となっており、学修成果が幅広い領域で伸びている。中でも3-9「他者と協働する力」は3.2から3.5へ上昇し、4年生で最も高い値となっているため、協働力の伸びが特徴的である。

○一方、3-6「外国語を使う力」は2年生2.7、4年生3.0、3-7「数理・統計・データサイエンス」は4年生3.1で、他の成果項目より低い状態が続いている。専門知識や協働力は伸びているものの、外国語と数量的分析力が相対的な課題といえる。

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(4:そう思う 3:ある程度そう思う 2:あまりそうは思わない 1:そうは思わない)



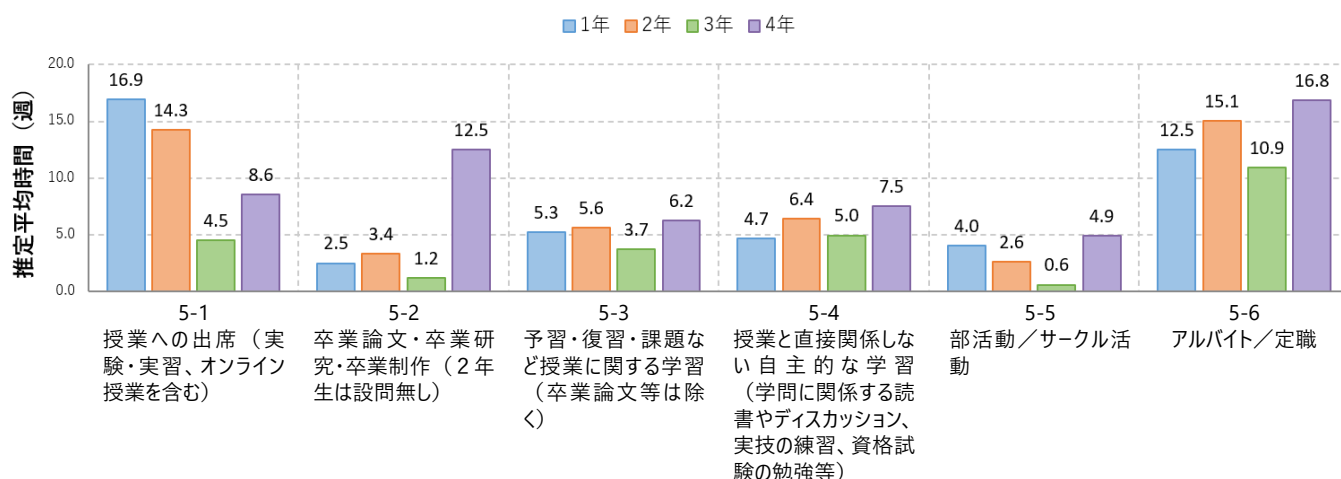
○4-4「成長実感」は1年生3.2から4年生3.5へ、4-2「学生意見による教育改善」は3.1から

3.4へ上昇しており、学年進行に伴う伸びが顕著である。4年生では4項目が3.4～3.5にまとまり、大学教育への評価が全般的に高い状態であるといえる。

○特に、1年生で最も低かった4-2「学生意見による教育改善」が4年生では他項目に近づいており、項目間の差が縮小していることから、低学年では教育改善の実感が弱いものの、上級年次で評価が高まる点の特徴であるといえる。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。
(1:0 時間 2:1-5 時間 3:6-10 時間 4:11-15 時間 5:16-20 時間 6:21-30 時間 7:31 時間以上)

※各回答の階級値 (1:0/2:3.0/3:8.0/4:13.0/5:18.0/6:25.5/7:35.5(31-40 時間と仮定した場合)) の平均値を集計



○5-1「授業への出席」は1年生16.9時間から4年生8.6時間へ減少し、5-2「卒業論文・卒業研究」は2.5時間から12.5時間へ増えており、学修の中心が大きく変化している。

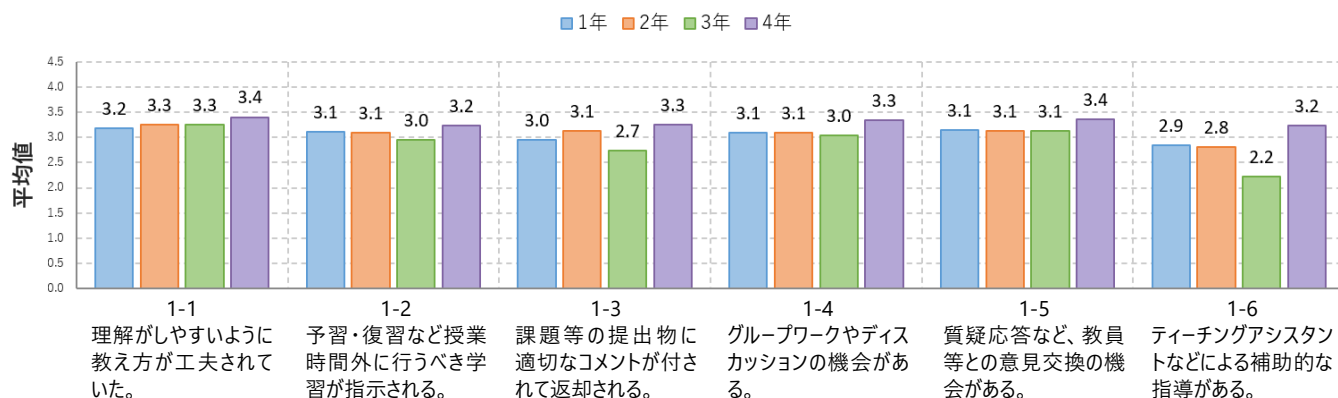
○5-4「自主的な学修」も1年生4.7時間から4年生7.5時間へ伸びており、授業外での学修時間が増えている点は特徴的である。

○5-6「アルバイト・定職」は1年生12.5時間から4年生16.8時間へ増加し、すべての学年で長い時間を占めているという結果となった。

(3) 法学部

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

(4:よくあった 3:ある程度あった 2:あまりなかった 1:なかった)



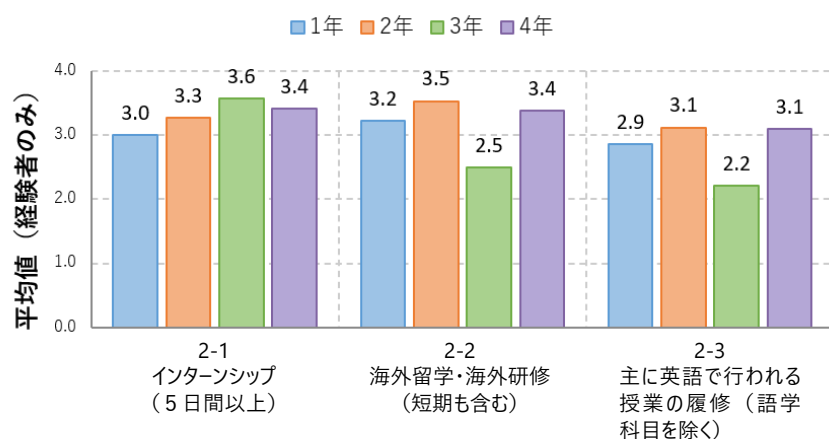
○4年生は6項目すべてで1・2年生を上回っており、授業評価が上級年次で全般的に高まっている。特に1-5「教員等との意見交換」は1年生3.1から4年生3.4へ、1-3「課題等へのコメント」は3.0から3.3へ伸びており、対話とフィードバックの向上が顕著である。

○一方、1-6「補助的指導」は1年生2.9、2年生2.8と低く、4年生では3.2まで上がるものの他項目より低く、補助的な学修支援は継続的な課題といえる。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

(4:有用だった 3:ある程度有用だった 2:あまり有用ではなかった 1:有用ではなかった 0:経験していない)

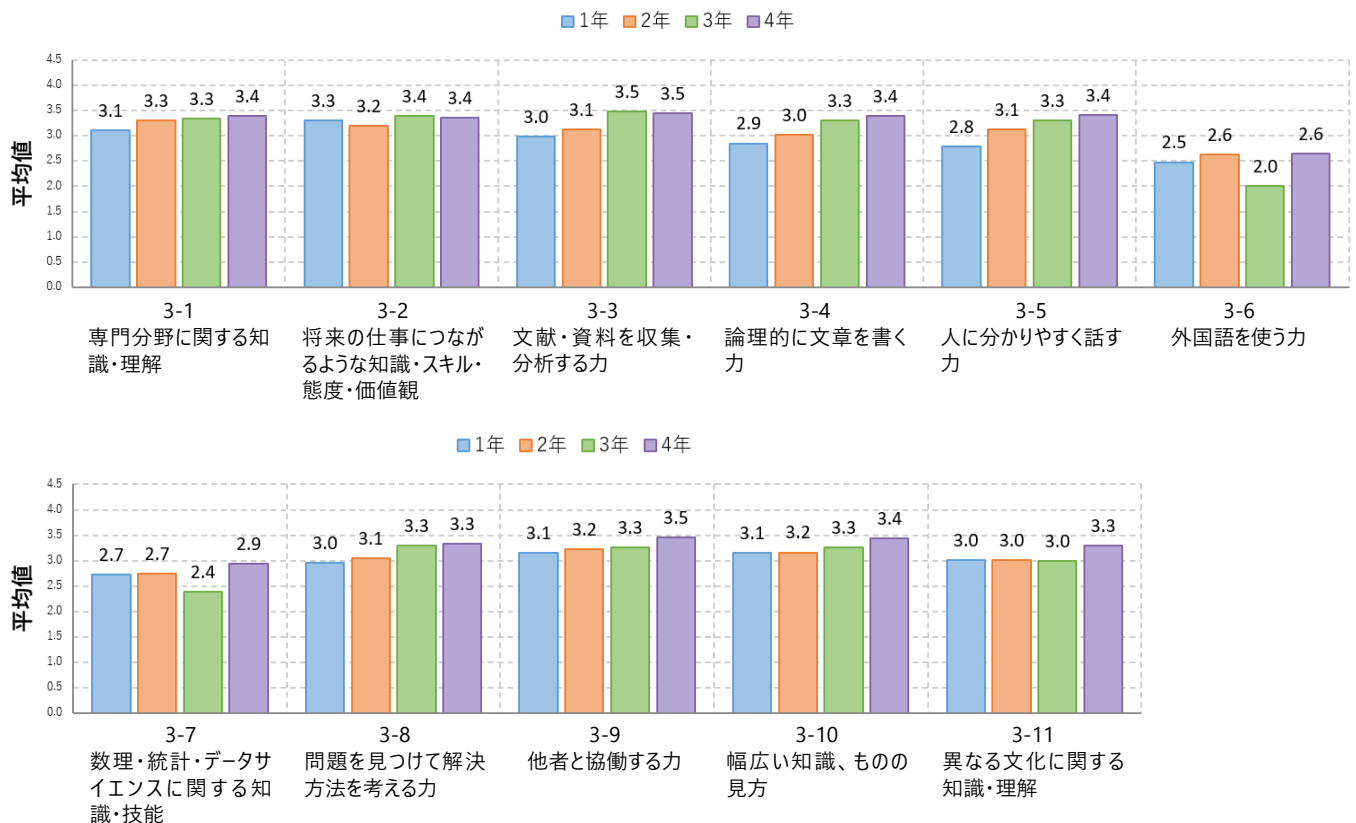
※「0:経験していない」を除いて集計



○経験者による評価では、2-1「インターンシップ」が1年生3.0から4年生3.4へ伸びており、学年進行に伴う上昇が最も顕著である。

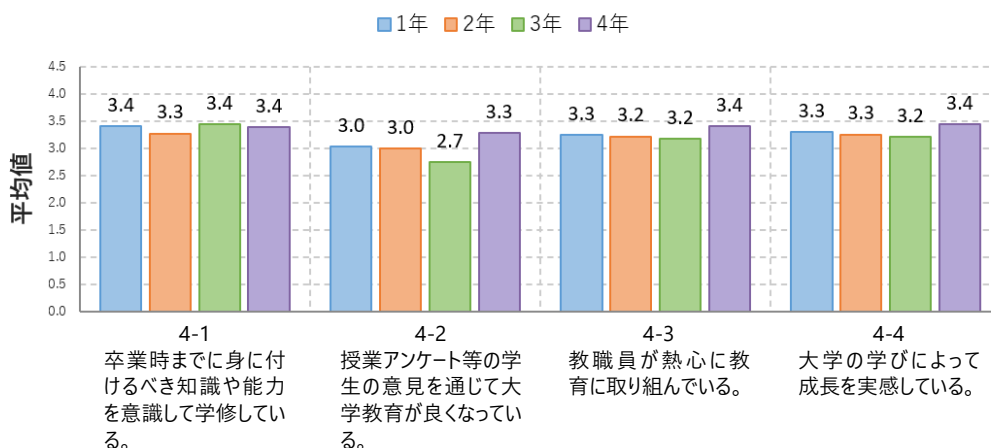
○2-2「海外留学・海外研修」は2年生3.5、4年生3.4と高い評価を維持している一方、2-3「英語で行われる授業」は1・2・4年生のいずれでも3項目中最も低く、4年生でも3.1となった。インターンシップや海外研修の評価に比べ、英語授業の評価が伸び切っていない点が課題といえる。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。
(4:身に付いた 3:ある程度身に付いた 2:あまり身に付いていない 1:身に付いていない)



- 3-3「文献・資料の収集・分析」は1年生3.0から4年生3.5へ、3-4「論理的な文章」は2.9から3.4へ、3-5「分かりやすく話す力」は2.8から3.4へ伸びており、法学の学修と関係の深い収集・論述・説明の力が顕著に高まっている。
- 一方、3-6「外国語を使う力」は2.5～2.6でほとんど伸びず、各学年で最も低い値であり、3-7「数理・統計・データサイエンス」も2.7から2.9への小幅な上昇にとどまっている。専門的な言語能力は伸びる一方、外国語と数量的分析力が課題といえる。

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。
(4:そう思う 3:ある程度そう思う 2:あまりそうは思わない 1:そうは思わない)



- 4-2「学生意見による教育改善」は1・2年生で3.0と4項目中最も低いものの、4年生では3.3ま

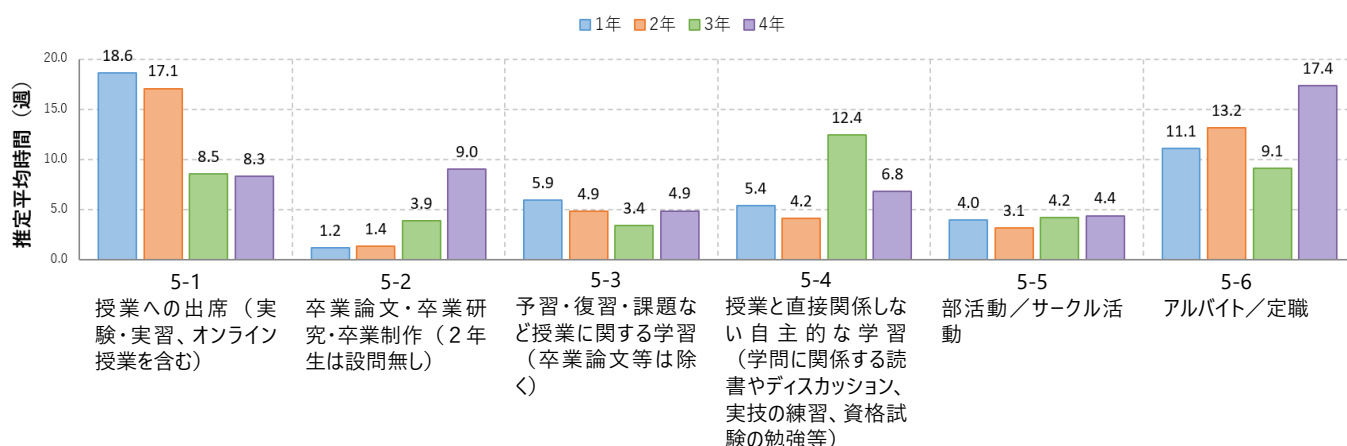
で上昇している。

○4年生では4－1、4－3、4－4がいずれも3．4となり、教育目標、教職員の姿勢、成長実感の評価が高いといえる。

○低学年では4－2「学生意見による教育改善」と他項目の差が0．3～0．4あるものの、4年生では差が0．1まで縮小していることから、学生意見が教育改善につながるという実感においては、上級年次での改善が見られる。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれのくらいですか。
(1:0 時間 2:1-5 時間 3:6-10 時間 4:11-15 時間 5:16-20 時間 6:21-30 時間 7:31 時間以上)

※各回答の階級値 (1:0/2:3.0/3:8.0/4:13.0/5:18.0/6:25.5/7:35.5(31-40 時間と仮定した場合)) の
 平均値を集計



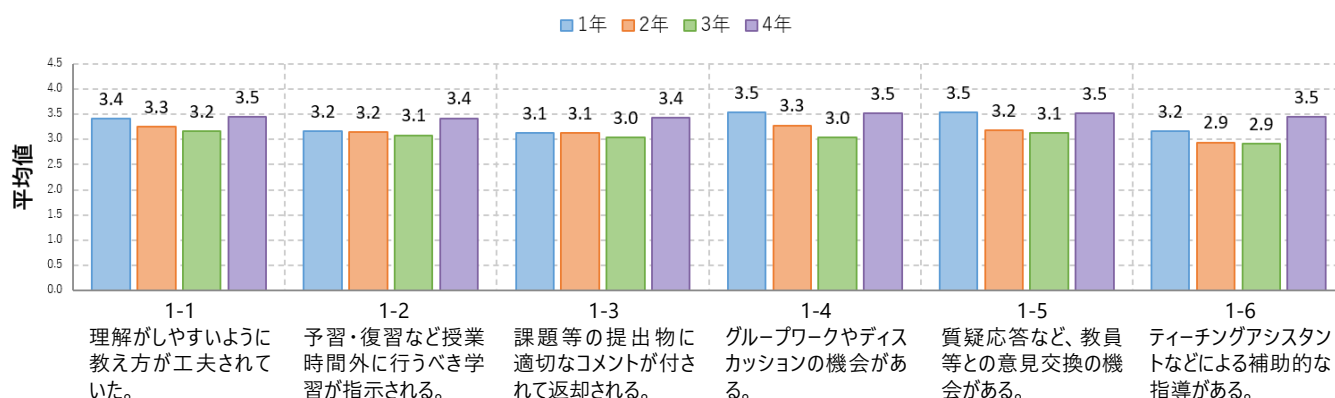
○5－1「授業への出席」は1年生18．6時間から4年生8．3時間へ減少し、5－2「卒業論文・卒業研究」は1．2時間から9．0時間へ増えている一方、5－3「授業関連学修」は1年生5．9時間から2．4年生4．9時間へ低下し、学年進行による伸びが見られないという結果となった。

○5－4「自主的学修」は4年生で6．8時間まで増えるものの、5－6「アルバイト・定職」が17．4時間と大きく上回っている。4年生では研究と自主学修が増える一方、就労時間が突出して長く、授業関連学修が伸びていない点が課題といえる。

(4) 国際学部

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

(4:よくあった 3:ある程度あった 2:あまりなかった 1:なかった)



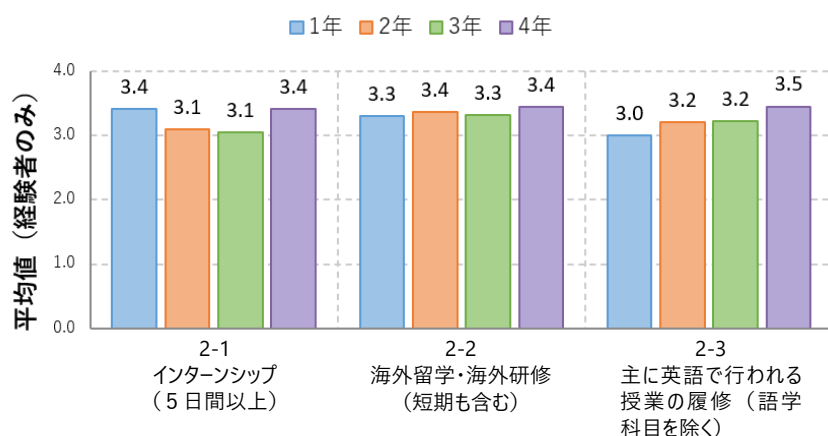
○4年生は6項目すべてが3.4～3.5となっており、授業の方法、対話、支援を含めて高い評価がそろっている。

○1-4「グループワーク等」と1-5「教員等との意見交換」は1年生と4年生でともに3.5となり、参加型・対話型授業が継続的な強みである一方、2年生は複数項目で値が下がり、特に1-6「補助的指導」は2.9まで低下している。4年生では1-6も3.5に回復しているため、2年生段階の「補助的指導」が課題といえる。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

(4:有用だった 3:ある程度有用だった 2:あまり有用ではなかった 1:有用ではなかった 0:経験していない)

※「0:経験していない」を除いて集計

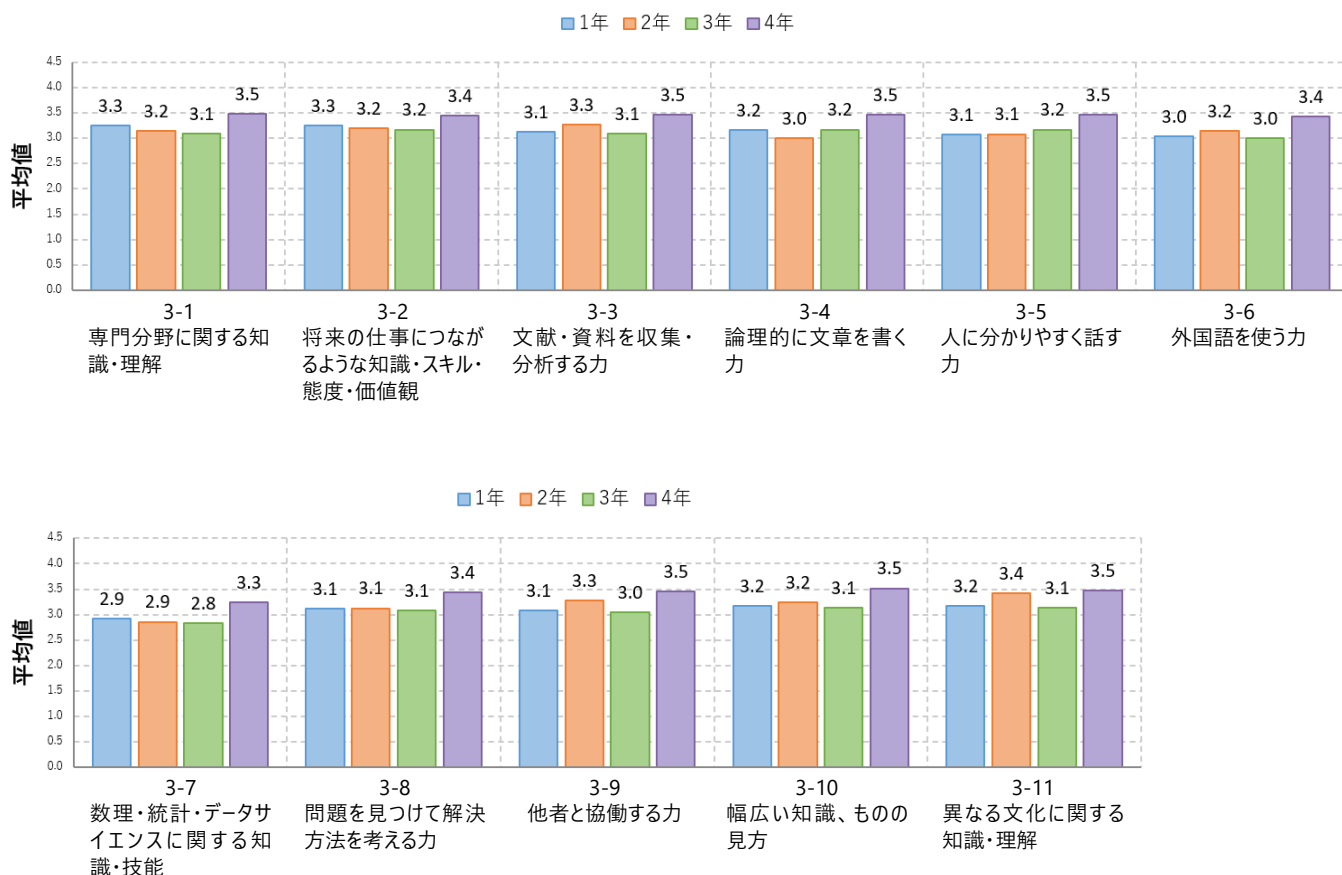


○経験者による評価では、2-3「英語で行われる授業」が1年生3.0、2年生3.2、4年生3.5と一貫して伸びており、2-2「海外留学・海外研修」も2・4年生で3.4を維持していることから、国際学部の特色が最も明確に表れている。

○一方、2-1「インターンシップ」は1年生3.4から2年生3.1へ低下し、4年生で3.4に戻る形です。英語・海外関連の学修機会は高く評価される一方、インターンシップは2年生で評価が落ち込む点が課題といえる。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(4:身に付いた 3:ある程度身に付いた 2:あまり身に付いていない 1:身に付いていない)

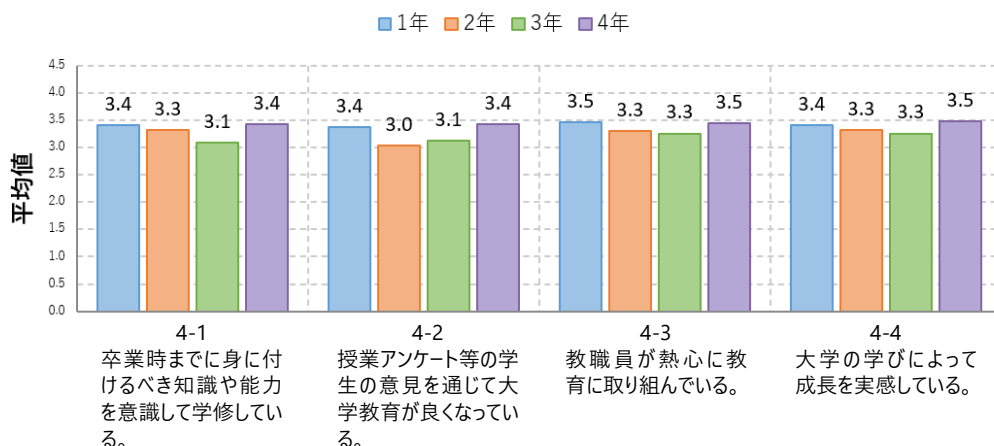


○ 4年生では11項目がすべて3.3～3.5に収まり、学修成果が幅広い能力に広がっている。特に3-6「外国語を使う力」は1年生3.0から4年生3.4へ、3-11「異文化理解」は3.2から3.5へ伸びており、国際学部の特徴に関わる能力の成長が顕著である。

○ 3-7「数理・統計・データサイエンス」は1年生2.9から4年生3.3へ伸びているものの、4年生では11項目中最も低い値であることから、外国語・異文化理解は強みとして伸びる一方、数量的分析力は改善しつつも相対的な課題であるといえる。

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

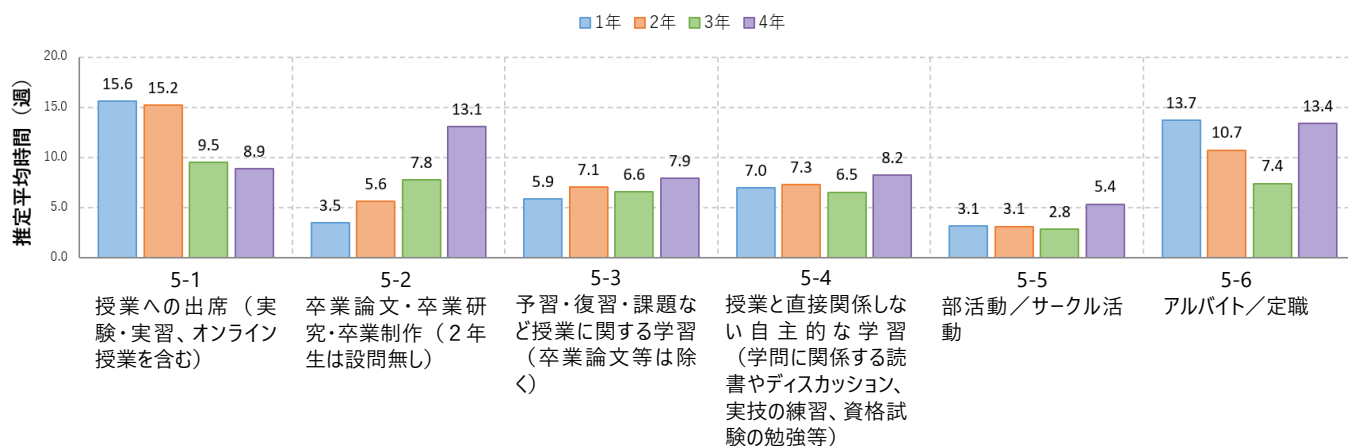
(4:そう思う 3:ある程度そう思う 2:あまりそうは思わない 1:そうは思わない)



- 2年生は4項目すべてで1・4年生を下回っており、大学教育への評価が2年次で落ち込んでいる。特に4－2「学生意見による教育改善」は1年生3.4から2年生3.0へ下がり、4年生で3.4に戻るため、2年生の低下が顕著である。
- 4－3「教職員の熱心さ」は1・4年生で3.5、4－4「成長実感」は4年生で3.5となっており、上級年次では高い評価がそろっていることから、教育改善の実感を中心に、2年生段階で全般的な評価が低下している点が課題といえる。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。
（1:0 時間 2:1-5 時間 3:6-10 時間 4:11-15 時間 5:16-20 時間 6:21-30 時間 7:31 時間以上）

※各回答の階級値（1:0/2:3.0/3:8.0/4:13.0/5:18.0/6:25.5/7:35.5（31-40 時間と仮定した場合））の平均値を集計



- 5－3「授業関連学修」は1年生5.9時間から4年生7.9時間へ、5－4「自主的学修」は1年生7.0時間から4年生8.2時間へ伸びており、授業外学修が学年進行とともに増えている。
- 5－2「卒業論文・卒業研究」も3.5時間から13.1時間へ大きく増加しており、4年生では研究時間の伸びが顕著であるといえる。
- 5－6「アルバイト・定職」では、1年生13.7時間が最も長く、他学部とは違う結果となった。

以上